

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 チーム伐倒

テーマ 安全な伐木方法の技術及び指導力の習得

取組のポイント・成果

○取組の内容とポイント

新型コロナウイルス感染予防対策により、外部講師を招いて行う研修は未実施に終わった。しかし、11月から始まる演習林実習に向け、教員間での枯損木伐倒方法についての研修を行った。研修によって、実際に枯損木の伐倒をさせる際に気を付ける点を共有しあい、さらに実際に体験することでより安全な実習につなげることができた。

〈研修で共有した内容〉

枯損木を倒す際に気を付けるポイント

- ・腐朽しているため、作業を始める前から倒れる可能性がある。
- ・くさびやチェーンソーの振動により枯損木が折れ、作業者に当たる可能性がある。
- ・葉や枝がついていないため、伐倒後に跳ね上がることや碎けることが考えられる。
- ・かかり木になった際、無理に押し倒そうとすると跳ね返って作業者に当たる可能性がある。

安全な伐倒を行うために必要なポイント

- ・作業に入る前に各自服装や装備の確認をする。
- ・伐倒方向、退避場所、周囲の確認、情報確認を指差し呼称で行い、周囲状況の把握とともに作業者の精神状態を落ち着かせる（図1）。
- ・半径が当該木樹高の2倍以内には立ち入らないことと立ち入らせないことを確認する。
- ・受け口は直径の3割～4割程度で作成し、受け口の会合線は確実に合わせる。
- ・追い口を作成する前につるの残す量を確認し、つるを切りきらない。
- ・伐倒後は上方から枯れ枝や枯葉が落ちてくる危険性があるため、上方を確認する場合は少し落ち着いてから確認する（図2）。

○成果

伐倒方法の確認や実際に伐倒作業を体験することにより、その場に応じた伐倒方法を学ぶことができた。そのため、授業では伐倒する枯損木や立木に対して冷静に対処することができ、生徒の安全な実習と伐倒方法の指導を行うことができた（図3）。



図1



図2



図3

今後の課題

山林の立木の伐倒にはそれぞれ求められる技術は変わってくるため、安全に行うには教員の指導力と技術力が不可欠である。しかし、本事業の活動目的である「本人に見合った技術段階で指導を受け、技術と指導力の向上を図る」ことは未実施に終わった。各自での技術力向上を図ると同時に各校での共有を行う必要があると感じた。